

HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第11号 2008年6月発行

バングラデシュ水害被災者支援事業が無事完了しました

ジャパン・プラットフォームの助成を受けてハビタット・ジャパンが昨年12月から実施してきた「バングラデシュ水害被災者のための再定住支援事業」は、3月14日に無事、高床式簡易住居＝写真＝120軒の建設を完了しました。今回の事業ではさらに2軒分の寄付金が寄せられたことから、合計で122軒の簡易住居を被災者に引き渡すことができ、大きな成果をあげることができました。



ハビタット・ジャパンは現地ハビタット事務所の協力のもと、首都ダッカの北にあるブアプール郡で建設にあたり、洪水に備えて高床式の特別の住居をデザインしました。壁は竹製の羽目板を使い、デッキは細長く割った竹を使用しました。高床式の床とデッキを支える高足はセメントでがっちり造りました。

被災者のひとり、ゴル・ホセンさん家族は新しいハビタット・ハウスをもらい「この家だったら、洪水から身を守れるし、また家も被害を受けないから、他の所に移動する必要もない」と喜んでいました。また娘さんのゴラピさんは「前の古い家は狭くて勉強するスペースもなかったけれど、この新しい家では勉強するのも可能になりました」と笑いながら話してくれました。

また別の被災者、モハマド・ハビブルさんは「これこそが私が夢見た家です。たとえ今度洪水が来てもこ

の家は大丈夫だろうし、家族一緒に平和に暮らせる。また子供たちも勉強がよく出来るだろう」とうれしそうでした。

◇ ◇

今回の事業では日雇いの大工をはじめ多くのスタッフが関わりましたが、それらの中からふたりのキーパーソンを紹介します。

マネージング・ディレクターのアブル・バシヤールさんは、建設部門を指揮するプロジェクト・エンジニアです。資材の準備時から建設まで、非常に丁寧な仕事をします。クリエイティブに、資材管理、建設管理、建設スタッフの管理を行っています。

困難に陥っても“*We shall overcome*”といい、解決方法を具体的に模索し、提示してくれます。仕事への責任感は一歩あって、事業に参加して以来、一度もダッカに帰らずに、休日もブアプール事業地にはりついています。同僚スタッフを気遣い、関係を大切にしています。

彼は自分のことを時々話してくれますが、ひとつ印象に残っているこ



とがあります。「何か問題があったらまず自分で考えてみることだ。人は皆、解決する力、内に秘めた力を持っていると信じているんだ。」と言っていたことです。黙想の時をもち、自分の力を引き出しているそうです。

忙しくサイトを回っているときでも、夕日を見ると一瞬立ち止まりま

す。ブアプール事務所ではたびたび停電になりますが、真っ暗な中、本当に美しく輝く月を見ることが出来ます。そんなとき、バシヤールが言いました。「月明かりがこんなに美しいのに、よく人は眠ることができない。自分は眠ることができない」。自然をこよなく好み、詩をよむことが好きだそうです。

◇ ◇

オペレーション・マネージャーのムスタファ・カマルさんは、洪水が起こる少し前の昨年7月にハビタット・バングラデシュで働き始めまし



た。名門ダッカ大学で、地理・環境学部内の災害管理を学び、災害管理・対策プロジェクトに関わった経験があります。

今回の事業ではオペレーション・マネージャーとして、日本人スタッフと最も密に連絡を取りながら、地域行政との調整、建設工程管理、エンジニアや他の建築スタッフの監督、資材調達など、多岐にわたる仕事を行ってくれました。

バングラデシュ到着の直後に、ハビタット・バングラデシュのオフィスで会ったとき、彼の目は本当に輝いていました。興奮と期待でいっぱいなのが感じられました。勢いがあり、情熱ゆえに激しい議論になることもたびたびですが、よいチームメートです。

CC紹介:SUAC Habitat for Humanity(静岡文化芸術大学)

現在ハビタット・ジャパンの学生支部(CC)は全国に13団体あり、それぞれが精力的に活動を行っています。多くの学生支部は関東・関西圏で活動していますが、今回は中部の静岡県で活動している「SUAC Habitat for Humanity (静岡文化芸術大学)」をご紹介します。

毎年好評のクリスマスパーティー

SUACでは他のCC同様に、街頭募金やフリーマーケットによる募金活動、また学園祭での活動発表などを行っています。特徴的な活動としてクリスマスチャリティーパーティーがあります。

「クリスマスにスマイルを」をテーマに、学内の他のサークルの協力を得てチャリティーパーティーを開催しています。クイズ大会を通じハビタットの活動を紹介し、オークションの収益金やパーティーの会費は海外での建築費の寄付金となっています。毎年好評のパーティーは、SUACの恒例イベントとなっています。

また、今春SUACはタイのウドンタニでのGV(グローバルヴィレッジ)活動に参加しましたが、今回は学内メンバーだけではなく一般参加ボランティアも受け入



れ、学生・社会人混合チームを結成しました。普段は学生だけで活動しているメンバーたちも、社会人参加者から非常に多くの影響を受けたようです。現地の人も含め、多くの人との出会いがあるのがGVの一つの魅力です。

以下SUACチーム学生リーダーからのGV体験記をご覧ください。

“SUBARASHII DAYS”

“SUBARASHII GROUP!!”この言葉を一体何度聞いただろうか。作業を終えたとき、バスに揺られているとき、お昼ご飯を食べているときなど、現地ウドンタニ



で合流したトラビスがしきりに言っていた。タイでの9日間は、気づくと国境を越えた濃い友情を育てていた。

暑い日差しの中、必死にセメントを作り続ける作業は、決して楽ではなかった。私を除くと、ワークサイトでは全員が初めての体験ばかりだ。しかし私たちは一人ひとりが自分のできる作業を見つけ、率先して汗を流した。「体が、合理的に作業が進むように自然と動いている」私はメンバーを見ていてそんな感想をもった。これはまさにスバラシイことだ。私は心の底からこのメンバーを誇り



に思った。おそらくトラビスもそう感じたのだろう。

結果的に、時間を余らせる勢いで、私たちは4日間の作業で床と壁を作り終えることができた。無論、私たちメンバーの力だけではない。タイのハビタットスタッフやドライバーの方々と分かち合うことの出来る感動だ。初日はガランとしていた家の骨組みに、自分たちの作ったセメントや組み立てたブロックが肉付けされて家の姿になったのを見るのは、何とも言えない思いであった。

私がこのGVに参加して感動したのは、もう一つ、ウドンタニの人々の温かさであった。お店の人にはこやかに手を合わせて挨拶し、会話が弾むとしょっちゅうアドレスや電話番号を聞かれたものだった。子供たちも元気で、名前を教えると「ユウ、ユウ」と名前を呼んでなついてくれた。

スバラシイ場所に、スバラシイメンバーとハビタットのGVに参加することが出来て、1年間学生代表を務めてきて本当に良かったと思う。途中、一人で責任感や仕事を背負い込んで辛い時期もあったが、そのような過去に今は感謝している。2日目の作業の後、全員でミーティングをしたときに多くのメンバーが流した感動の涙を、私は忘れない。

(SUAC in support of Habitat for Humanity 学生代表 野島 優)

**ハビタットCEOが来日!
記念の講演会を上智大学で開催**

世界100以上の国・地域で活動しているハビタット・フォー・ヒューマニティ。住宅を「与える」のではなく、ボランティアも支援を受ける側も、対等の立場で「一緒に築く」ことでコミュニティの自立支援を行っている。そのハビタット・フォー・ヒューマニティのCEO(最高経営責任者)である、ジョナサン・レックフォード氏が来日します。

国際協力・社会貢献が日本でも浸透し始めた中、日本の将来を担う若者たちは、どのような活動ができるのか。数々の国際企業・NGOで重役・代表を務め、現

在ハビタット・フォー・ヒューマニティのCEOであるレックフォード氏が日本の若者が参加できる国際協力・社会貢献のアイデアを紹介します。

ジョナサン・レックフォード氏講演会
日時: 2008年6月30日(月)
17時30開演(17時開場)
19時30分終了予定
場所: 上智大学12号館102教室
(北門入ってすぐ右側のビル1階)
*入場無料: 参加申し込み不要 使用言語: 英語(通訳つき)

ハビタット国際NGO研究会が開講！

2008年4月3日（木）、2008年度の新規事業、ハビタット国際NGO研究会（略称：ハビ研）が東京・四ツ谷の岐部ホールにて開講しました。この「ハビ研」は、国際NGOであるハビタットの実践的な活動の分析を通じて、社会変革を担う市民運動体であるNGOの解明を目的とした研究会です。この日はハビタットのキャンパスチャプターから代表者ら22名が参加しました。

研究会ではハビタット・ジャパン茂木事務局長代行から「非営利セクター登場の歴史的・社会的背景」「NGOの存在理由」など、組織運営論が報告されました。また、記念すべき一回目のゲストスピーカーとして、（株）コスモスイニシアで、シチズンシップ推進課リーダーとして同社グループのCSR活動を推進している森永真由子氏をお招きし、「企業とNGO、協働の可能性—個人的活動の積み重ねの先にあるもの—」と題し、普段、業務として取り組んでこられたCSR：Corporate Social Re-

sponsibility（企業の社会的責任）の経験やご自身の考えなどをお話いただきました。

「CSRとは、社会のひずみを正し、社会を『あるべき姿』の状態に戻すこと。企業をひとりの人間として見立てたときに、『善い人間になろう』というのと同じなのです。『CSRは利益にならない。それなのに、なぜCSRをやらなければならないのか』という意見があるかもしれません。しかし、CSRこそ、利益の根源である『お客様からの信頼』を生む事業だと、私は考えています」と話す森永さん。

ハビタットの活動に取り組んでいる学生たち、特に就職活動中の大学生や、企業CSRへの就職を目指している学生たちにとって、CSRで実際に活躍されている森永さんのお話は大きな糧となりました。

また、第2回のゲストスピーカーとして、東京大学大学院法学政治学研究科で行政学を専攻されている、白取耕一郎さんをお招きし、「ハビ



タット・ジャパンの立ち位置と考える戦略 - 経験的NGO論 -」と題し、NGO・行政それぞれの特徴や強み・弱み、関連分野の他NGOとの比較、世界のハビタットと比較などをお話いただきました。

2006年にJCWP（ジミーカーター・ワークプロジェクト）に参加して以来、東京大学にてハビタットの活動にも取り組まれる白取さんのお話はとても分かりやすく、同じくハビタットの活動にとりくむ大学生たち、ハビタット・ジャパンにとってとても有意義なお話でした。

このあとハビ研は、5月に事業運営論、6月に広報戦略論という具合に、NGO研究の山場に差し掛かっています。

【能登半島地震被災者支援】

UT Habitat、輪島での土蔵修復に取り組む

東京大学にてハビタットの活動に取り組むUT Habitatが、5月3日（土）～5日（月・祝）の3日間、能登震災にて被災した土蔵の土落としや土間の三和土づくりに参加しました。土蔵は輪島塗の作業所や酒造工場として使われているところも多く、まちづくりの観点からみても貴重な財産です。ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは、2007年5月と8月にも土蔵修復支援活動をしています。

UT Habitat 白取さんからの活動報告

ゴールデンウィークの5月3日から5日の3日間、石川県輪島市で実施された土蔵解体修復活動に参加してきた。実はこれが昨年に続いて2回目の参加である。

2007年3月の能登半島地震で、輪島の伝統的建築物である土蔵は大きなダ

メージを受けた。行政はその撤去に補助を出したということで、500以上の土蔵が既に輪島から消えたという。この動きを受けて、地元有志によるNPO、輪島土蔵文化研究会は地道ながらも土蔵を残す運動を始めた。私たちが参加してきたのは、そのプロジェクトの一部である。

作業は、実はそこそこキツイ。しかし、江戸時代の土壁をハンマーで落としていくのは快感である。わらを混ぜた土の感触は独特だ。そして、このプロジェクトは日本の伝統文化について考えるよいきっかけになった。放っておけばどんどん消えていってしまうものがある。消すのは簡単だけれど、残すのはものすごく大変である。土蔵の土の重さが、伝統の重みに思えた。

地元の人たちとお話して一緒にお酒を飲む機会もあり、土蔵文化、漆器文化

の担い手らを垣間見ることができた。漆器を販売する塗師屋さん、漆塗りの職人さん、若き研修生、土蔵のオーナーさん、輪島で暮らす人たち。

解体修復作業の感覚や土ぼこりを思い出しながら、自分も日本の伝統文化保存のわずかな一端を担えたことにちょっとした感慨を覚えている。

白取耕一郎 (UT Habitat)



寄付・助成金リスト (2008/3/1~2008/5/31)

みなさまのご支援は、「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために使わせていただきます。ありがとうございました。(敬称略・順不同)

<寄付金>

日付	寄付者名	支援国指定	金額
3月11日	S I A 日本中央		300,000
3月21日	内藤 純		3,000
4月23日	大福来・市川 里福		20,000
4月23日	坂本 里美		3,700
4月30日	株式会社エスプレ		63,200
5月12日	安保 亮	ミャンマー	10,000
5月12日	タケムラ ハルカゼ		1,000
5月14日	トミタ ミホコ	ミャンマー	3,000
5月16日	張 裕淵	中国四川省	10,000
5月16日	森川 洋子	中国四川省	10,000
5月19日	ヤマモト タカシ		5,000
5月19日	熊倉 絵美	中国四川省	5,000
5月20日	サノ カズヤ		3,500
5月20日	川畑 陽子	中国四川省	10,000
5月20日	阿部 大	中国四川省	1,000
5月22日	フタムレ マサノリ		10,000
5月22日	神戸大学医学部免疫内科	中国四川省	10,000
5月22日	株式会社遊企画・施 治安	中国四川省	10,000
5月23日	平田 琴恵	中国四川省	10,000
5月23日	中川 健	中国四川省	5,000
5月28日	カン ゲンシュン	中国四川省	10,000
5月29日	タカハシ モトコ	中国四川省	1,000
5月29日	イマイ ユウコウ	中国四川省	10,000
5月29日	宮坂 彰利	中国四川省	5,000
5月29日	榊原 エリン		17,000

タイでの建築活動参加者募集！ (8/27-9/3)

今年の夏は、ハビタット・フォー・ヒューマニティの建築ボランティアに参加しませんか。

今まで、個人での参加が難しかったハビタットの建築ボランティア「Global Village(GV)」ですが、今回は

「地球の歩き方」とのコラボが実現！タイ（バンコク市郊外）での建築ボランティア参加者を一般募集します。

====ココがポイント！====

共に汗を流し、力をあわせ「一緒に築く」プログラムです。

☆現地の活動を「見に行く」のではなく、「実際に活動できる」プログラム。

☆ボランティアも支援を受ける側も「対等な立場で、一緒に家・友情を築く」。

☆専門家でなくとも建築活動に参加することができます。

☆孤児院または小学校／幼稚園訪問を訪問して子どもたちとの交流を楽しんだり、文化を知るための観光も含まれています。

日程：2008年8月27日（水）～9月3日（水）
8日間（うち建築活動は5日程度）

建築場所：タイ王国（首都バンコク市郊外）

費用：179,000円（サーチャージは含まれていません）

■利用予定航空会社：シンガポール航空、タイ航空

■利用予定ホテル：バンコク市外／リージョナル・コミュニティ・フォレスト・トレーニング・センター（カセサート大学内）

■旅行代金に含まれるもの：●往復航空運賃●日程表に明記された移動費用並びに観光費用●全行程の宿泊代（2～3人部屋利用／男女別）●現地係員費用●添乗員費用●食事代金：昼食5回・夕食2回

■説明会■6月20日と7月7日<要予約>

「地球の歩き方」が開催する「海外ボランティア説明会」にハビタットも出席します。説明会への参加は必須ではありませんが、「直接話ができる」「不安が解消できる」チャンス。申し込みをご検討の方は、是非説明会への参加もご検討ください。



ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは地域のニーズに基づいたプログラムや個人参加を通して世界中の貧困住宅の撲滅を目指しています。2007年は100以上の国々で、100万人近くのボランティアが参加しました。私たちのエキサイティングな活動に関するさらなる情報をご希望の方はぜひ下記までご連絡ください！

Habitat for Humanity Japan

〒164-0003
東京都中野区東中野1-45-5 Tel: 03-5330-5571
日ノ出ビルB101 Fax: 03-5330-5572
発行人：堀内 紘子 URL: www.HabitatJP.org
編集人：茂木 周二 Mail: info@HabitatJP.org
同：伊藤礼、内田三智子

